「部落差別解消推進法」（H 28.12.16）　差別のない社会の実現をめざして成立しました。一人一人が人権問題を正しく理解し，正しく伝えていくことが大切です。

十島村教育委員会だより　令和元年12月号

しわやかトーカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

12月・・・総合教育会議

十島村教育委員会
教育長　有村　孝一

12月2日に総合教育会議が開催されました。

2011年（平成23年）10月11日に滋賀県大津市内の中学校の当時2年生の男子生徒がいじめを苦に自殺するに至った事件がありました。大津市中2いじめ自殺事件と呼ばれているものです。事件前後の学校と教育委員会の対応が問題視され、大きく報道されました。翌年には本事件が誘因となって「いじめ防止対策推進法」が国会で可決されたわけです。

さらには、いろいろなことが新しく変わるきっかけとなりました。教育委員会制度も大きく変わることとなります。その中に首長が主催して開催されます総合教育会議が新たに設置されました。そのほか、これまで4年でした教育長の任期が3年となりましたのも、このときからです。

このことからもわかるように、総合教育会議は、児童生徒に身の安全を脅かすようないじめの事案がある場合に開催されることとなっています。しかし、十島村におきましては、現在のところそのような事案は、確認されていません。とはいうものの教育について村長を交えて教育委員と語る機会を作るということは、たいへん意義あることでありますので、毎年、村では開催しています。

今回の協議事項としては、いじめ問題の現状と教員の働き方改革の2点でした。

いじめ問題の現状については、「いじめ問題を考える週間」の取組状況について、アンケート等を元に報告があり、協議がなされました。学校では、毎年教員の校内研修はもとより、子供たちへの、いじめ問題や命の大切さを主題にした授業等を行っています。また、保護者に対しても、いじめに対する意識を高めるために、ＰＴＡの資料や学級通信などで、いじめ問題の啓発を行っているということです。県全体では、今年は昨年に比べて4割増加しています。これは、1件でも多く認知して、積極的に早期対応する意識が現場に浸透してきていると、県教委は分析しています。村では現在のところ問題はないものの、いつ起こるかわからないのがいじめですから、引き続きしっかり見守っていかなければなりません。

（テレビ会議システムを使って）

次に、教員の働き方改革については、学校職員の勤務時間に関する規則の一部を改正する規則が改正され、超過勤務を命ずる際の考慮事項などが県の教育委員会規則となったことから、改めてその規則について確認をしました。それによりますと、超過勤務の限度時間は、1月において45時間、1年について360時間とする。などを確認しました。学校においては、これらが守られるように今後も指導していきたいと思います。

クリスマスプレゼントとして，「森山（清）組」さんからケーキ，「ＪＡ鹿児島みらい」さんから文具等をいただきました。各学校の子どもたちは，とても喜んでいます。ありがとうございました。

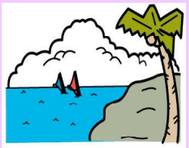
シリーズ　新聞に投稿
（令和元年１０月６日南日本新聞「若い目」掲載）
宝島小4年　川嶋　汐里

私の自慢の宝島

私は、宝島小・中学校の小学４年生です。３月は、大自然です。海はブルーで、濃い緑、空気の良さを伝えていきたいと思います。

一つ目は、宝島で暮らしてみて良かったことが三つあります。

一つ目は、東京に住んでいました。父が持ってきた宝島への留学の案内を見て、留学したいと強く思いました。



東京では得られないものでした。

小学校の児童生徒は十九人の宝島小・中学校の児童生徒は十九人です。小１から中３までみんなで落花生畑の世話をしたことです。

東京ではできない経験でした。

私の自慢の宝島は、卵の生産量が三年連続日本一です。

卵の生産量は、親鶏を飼っていて、産みたての卵で新鮮なものです。

話をしてくれます。

徒歩で全校生徒が入ってきます。

おルツ二人の食べ物がおいしいことです。

くたびれたときは、東京の父や友達が思い出します。

月に一度は、宝島に来てくれました。

私は、宝島の東京の宝島の海を一目見たくさんの人たちに宝島の良さを伝えていきたいと思います。

おめでとうございます

○　第６２回県児童生徒作文コンクール
特選　宝島小１年　清水　朝陽
「ぺちゃんこのうきわ」
入選　宝島小２年　廣瀬　優
「つばめのツバちゃん」
悪石島小６年　片野田　奏
「対馬丸から教わったもの」
宝島中３年　俣本　笑彩
「親と子は幸せになれる」

○　第２１回南九州市かわなべ青の俳句大会
小学の部　特選
諏訪之瀬島小６年　濱田一馬

シリーズ　新聞に投稿
（令和元年１０月１７日南日本新聞「若い目」掲載）
宝島中2年　寺田　花南

少しずつ高校考えよう

テレビ会議システムで十島村の七島を結んで、高校説明会が開催されました。私はまだどんな高校にかなり進みたいとか考えたことがありません。まだ２年生だし、そんなことをしなくてもいいと思っていました。

高校説明会では六つの高校を紹介してもらいました。各学校の先生が、学校の長所を紹介してくれました。いろいろな学科やコースに分かれて勉強できることや、部活動の種類がたくさんあることに驚きました。どの高校も充実した生活ができるような工夫があり、パンフレットの中の高校生たちはとても楽しそうな表情をしていました。

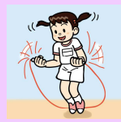
今回の高校説明会はテレビ会議システムで行われましたが、分かりやすくとても興味がわきました。まだ２年生だからと思わずに、少しずつ高校について考えてみようと思いました。

シリーズ　新聞に投稿
（令和元年１０月２６日南日本新聞「若い目」掲載）
口之島小6年　肥後　優衣花

成功したぞ文化祭

学級発表が終わった瞬間、「成功したぞ」という気持ちと同時に緊張がほぐれ、残ったのは学級発表だ。

文化祭で一番心に残ったのは、６年の４人は「Ｕ，Ｓ，Ａ，」の曲で竹馬とバブルタッチを発表し、最後に「パプリカ」の曲で一輪車、「島人ぬ宝」を合唱する。これまで全てが成功するかどうか、みんなが喜んでくれるかとても不安だった。



本番が始まると、最初から島民のみなさんが手拍子をしてくれたので、「Ｕ，Ｓ，Ａ，」は失敗しても勇気が出た。「Ｕ，Ｓ，Ａ，」の縄跳びが成功した。「よすることなく竹馬よく跳べた。「島人ぬ宝」も最後まで歌いきれた。ダブルタッチもリズムよく跳べたし、うまくいったぞ」とうれしかった。

「島民のみなさんから「すごかったよ。」「口之島の替え歌すごい」と喜んでもらうことができたので、全てが繰り成功したけど、最後は成功することが繰り返したのだと実感できた。失敗をしたけど、最後は成功することが思った。今年一番の４人の頑張りだった。

（令和元年１１月１０日　南日本新聞「ひろば」掲載）
楽しく地域をつなぐ「音楽」　廣瀬かおり（十島村）

「おんがく」は「音楽」であって「音学」ではない。ましてや「音が苦」であってはならない。私が音楽の道に進むきっかけとなった小学校時代の音楽専科の先生の言葉である。

宝島小・中学校で音楽指導をする中で、子どもたちが生き生きと音を楽しめるような「音楽」をしたいと常々思いながら指導している。そのために「大人も子どもも音楽を楽しめたら」という思いの下、地域が一体となった演奏活動ができないかと考えた。

本年度の「宝の夢文化祭」に保護者のほか島の人たちも巻き込み、「宝島島民有志演奏隊」を呼び掛けた。多数の参加の協力を得られた。演奏が得意な方、かつて楽器の演奏経験がある方、「何か一緒に活動したい」という人たちが力を合わせ、当日の演奏を成功させることができた。

音を合わせることの楽しさ、音を伝えることの喜びを感じることのできた瞬間となった。

【宝島小・中学校からのメッセージ】
教諭　腰　俊昭

教員になって５校目にして，初めて離島勤務の機会を頂いた。これまでの異動とは異なり，極少人数の学校への赴任，生活の基盤や家族との関わりが大きく変化することに戸惑いもあった。しかし，実際に赴任して１年１０か月となる今，その戸惑いは杞憂だったと言える。

これまで，生徒に対して「何事も経験。経験したことが，その人を逞しくするんだよ。」と語ってきた。まさに，自分が身をもってそのことを体感している。中学１・２年複式学級担任，小学生の国語授業，海での水泳学習，島全体で盛り上がる運動会・文化祭，宝島ならではの風習，単身生活……。自分の経験だけではカバーしきれないこともあったが，そのたびに児童生徒，保護者・里親，同僚がいつも支えてくれた。感謝の気持ちでいっぱいだ。そして，自分の得た経験をもとに，次は自分が誰かを支える形で還元したい。

本校の学校教育目標に，「１５の島立ちを見据えた教育」という言葉がある。児童生徒が宝島を巣立ち，広い社会で生きていくときに必要な資質・能力をどれだけ身に付けさせられるか，どれだけの経験をさせられるかだと思っている。私は，「書くこと」を通して一人一人に自信を持たせ，社会につながる接点を持たせたい。今後も，宝島小・中学校だからこそできることにこだわり，一人一人を見つめ，寄り添い，関わりを深めていきたい。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ

場所は離れていても「十島村」という縁でつながれることが嬉しいです。「十島村だから」できることに目を向け，子どもたちのために一緒に頑張りましょう。

シリーズ・・・十島村で学ぶ
中之島中学校　３年　藤谷　依風希

これからの自分

私は，小学三年生の初めにこの島へ来た。最初は，とても不安だった。でも，周りの人達が声をかけてきてくれてとてもうれしかった。

また，島で過ごす中で，島の伝統行事やめずらしい動物など，島でないと体験することができなかったことを体験した。

実は，最初に島に来ることはあまり乗り気ではなかった。しかし，六年たった今私は島に来て本当に良かったなと思う。

今年受験生になった私は，行きたいと思う高校がある。しかし，テストの点などがあまり良くない。また，早寝・早起きのできる時とできない時の差が大きい。これでは行きたい高校に行くことができない。高校に行くために，そして母が安心して送り出すことができるようにしたい。

私は，あまり勉強が好きではない。だからすぐ逃げてしまう。もう逃げてはいられない。受検日は，少しずつ近づいてきている。今まで通りのろのろとしたな生活をしてしまったら，行きたい高校に行けなくなってしまう。

これからは，今自分がしなければならない事が分かっているから，考えるだけではなく，行動に移そうと思う。そして，来年の夏休みには島に帰って，母に高校の話を聞かせられるようにしたい。